

最近感じたこと

岡山セラミックスフォーラム委員長 高宮陽一

第二次世界大戦が終りを迎えたとき、私は小学2年生であった。B29という米国の爆撃機を上空に眺めたり焼夷弾の投下される音を聞いたりした頃から約70年、一つの人生としては人類がまだ経験をしたことのない大きな社会の変化を体験することになった。その変化は餓死ということが日常生活にちらつく状態から飽食の時代まで、駐留軍の空き缶を利用したパン焼き器からスチームオーブン電子レンジまで、運良く材料を手に入れることができた手作りの鉱石ラジオから液晶テレビまでと多くの事柄が右肩上がりであったからあまりものを考えなくとも楽しく過ごすことができた。最近でも、研究が進めば進むほど、ICに観られるように、自然は奥深さを示し自然の法則を基礎とする物作りの技術は蓄積され、さらに積み重なって発展して行くので、この良い状態が続けば日本の将来は明るく、たとえスピードはダウンすることはあっても逆行することはないと思っていた。ところが最近の日本の状況を観ると閉塞感が強く、不安も渦巻く状態になりつつある。自然法則をベースとする技術や物作りがさらに発展する可能性を残しているのに将来に明るい展望が持てないのは自然と対峙する人間の制度とくに世界のリーダーとも評価された日本の統治の考え方や制度が時代に合わなくなったことが考えられる。

日本の従来の制度は御神輿経営に代表されるように極端な話、上司は何もしなくとも部下に優秀で経験豊かな人達が多く、その人達が実権を持ち運営する制度が定着していた。その制度の前提になるのは年功序列制と終身雇用であり、御神輿に乗る人は担当する業務に精通していなくとも、とくに高い能力がなくとも定期的な異動で昇進の道筋が作られ、余程のことがない限り、脱落することもなくいつその組織に入ったかが重要視される評価が行われていた。ところが、現在は日本の国際化が進み日本の統治や制度も国際的に通用するものに変革することが余儀なくされつつある。今はその移行期間にあるとも観られる。日本では、国際的な制度はトップダウンを主軸とするものと強調され、上司の決断に部下は速やかな実行が求められると説明されることが多い。

私は僅かではあるが、企業に在職中また、耐火物技術協会やISOやUNITECR関連の仕事を含めて欧米のリーダーと接する機会があり、その方々の仕事の進め方を学ばせて頂いた。私がまず気付いたのは、これらの方々は非常に寛容で会議の席では議題について誰彼の区別なく発言を促し、決して自分の考えを押しつけたり、発言を否定しないことであった。つまり、決断をする前にできる限りの情報と考え方の収集を行っていたと観られる。さらに欧米でリーダーになる方々は当然のこととして人の能力才能を見抜く資質を持っているように感じられた。このことは古今東西を問わず組織の最も重要なことで、組織を維持し発展させるために必然の資質と考えられる。

そこで、日本の統治制度を振り返ると、型を欧米型にするために、従来の御神輿に乗った人を機械的にリーダーに横滑りさせることが普通に行われたように感じられた。御神輿に乗っていた人も従来の組織を維持発展させるために作られたリーダーを選抜する過程で選ばれた優秀な人達であることは否定できないが、実務において欧米の統治制度を理解できない方が出てくることも否めない。この横滑りしたリーダーの大きな弱点は自ら情報を収集して評価する能力が不足していることにあると観られる。このため、決断ができなかったり、逆にあやふやな知識情報による決断を連発し、組織が機能しなくなる例も生じることになる。また、ある国際会議のレセプションの後で、出席した外国の方から、日本人社会では高く位置付けられた方について何故あの方が偉いのかかわらないと質問を受けたこともあった。日本の伝統、近代化への説明をしても、彼我の差は大きく理解を得るのは難しかった。

しかし、いろいろな問題があっても、現実には立ち止まることを許さない。周りを見回せばインターネットなどの新しいツールが利用できるようになっている。これらを活用して持ち場持ち場で情報を収集し、議論を深め欧米型に捕らわれない、新しい日本型の統治制度を作り上げて行く試みも必要なことではないかと感じている。